

大川小壁画に保護塗料

宮城・震災遺構 劣化進み業者無償で



ローラーを使い、壁画に紫外線防止保護塗料を塗る留畑
塗装の従業員ら＝宮城県石巻市の震災遺構・大川小で

東日本大震災で児童と教職員計84人が犠牲になった宮城県石巻市の震災遺構、大川小学校で9日、壁画の劣化を防ぐ塗装が初めて施された。かつて児童が描いた色鮮やかな壁画は震災前の学校風景を想起させる。津波に耐えて残ったものの、風雨にさらされ徐々にがれ、遺族や卒業生らが対策を求めていた。

福はありえない……」の言葉は比較的、損傷が少ないが、大川小校歌の「未来を拓く」の文字とともに描かれた校舎の赤い屋根は、震災直後の写真と比べて劣化が目立つ。

語り部をする遺族らは、後世に残そうと、遺構を保存する市に対策を求めたが進まず、6年生の三男雄樹さんを亡くした佐藤和隆さん(55)らが業者に相談。市の許可を得て試験し、現在の見た目のまま保護塗装できることを確認した。

この日、施工した「留畑塗装」社長の留畑豪紀さん(56)は「きれいな状態だから伝わるものもあるはず」と話した。震災前の10年秋、同小そばの新北上大橋で作業中、児童が鼓笛隊の練習をしていた風景が忘れられず「うちがやるべきこと」と無償で引き受けた。

毎年、塗装が必要といい、佐藤さんは「学校防災の象徴として残していかなければいけない。校舎の劣化も進んでおり、市はしっかり保存してほしい」と訴えた。【百武信幸】